

世界の靴物語 ⑦

文・画 神奈川県企業博物館連絡会顧問 福原一郎

イギリス *Jodhpur boots* ジョドパー・ブーツ

ジョッパーともいわれ、チャッカー・ブーツよりも少し深いアンクル・ブーツの1タイプである。爪先は一切飾り革などの切替えがないプレーン・トウで、はき口まで高く立ち上っている。

足首の廻りにストラップを巻き付け、外側をモンク・ストラップのようにバックルで留めるようになっている。

甲の素材には茶や黒のスムーズなカーフを用い、グッドイヤー・ウエルト式製法で仕立てられ、革底に革の踵が付いている。

ジョッパーズとは乗馬用のズボンのことで、腰のまわりはゆったりとしていて、膝から足首まではぴったりとフィットしている。丈は長く、狩猟や正式な乗馬にも用いられている。

ジョドパーの名はインド北西部にある地名「ジョドプール」にちなんだものといわれている。

19世紀末にイギリスに現れ、20世紀初めにはアメリカに伝わって人気となった。

近年は一般化して各種のアンクル・ブーツと共に男女用のものが造られ、ジャケットなどに合わせてタウン用に履かれるようになった。

日本 絲鞋 しかい

日本古来の伝統的なはきものには開放的な下駄や草履ぞうりなどのほかに閉塞的なくつも用いられている。雪国で履く藁わらぐつや動物の皮でつくられたくつが狩猟や農耕などに用いられてきた。

くつを表すのに沓や履、鞋などの文字が使われるが、その中には中国大陸や朝鮮半島、その他の地域から伝来したものもある。

絲鞋しかいは「いとのかつ」ともいわれて、皇室の伝統行事や、舞楽のとき舞人が履いた。白の絹糸を編んだレース状の素材を甲に用い、中底の部分は藁草いぐさの畳表のような素材を使い、革を張った表底と底廻りの縁取りには白のなめし革を用いてある。

甲は中心で接ぎ合わせ、先端が盛り上った爪先部分と後部の月型部分は両側面の下方でつながっている。V型のスリット上端に小さな輪をつくり、紐を通して足首に結びつけるようになっている。

絲鞋を履くときは、くつ下に当る、襪（しとうず）という白の平絹でつくられた指股のない紐付の足袋を用いる。

この絲鞋は、日本の伝統的なはきものとしてデザインも優れており、緻密なレース編みの技術は工芸的にも素晴らしく、世界に誇れるものである。

完

Jodhpur boots

ジョドパー・ブーツ



イギリス

絲鞋

しかい



日本